

東京都と全国との比較

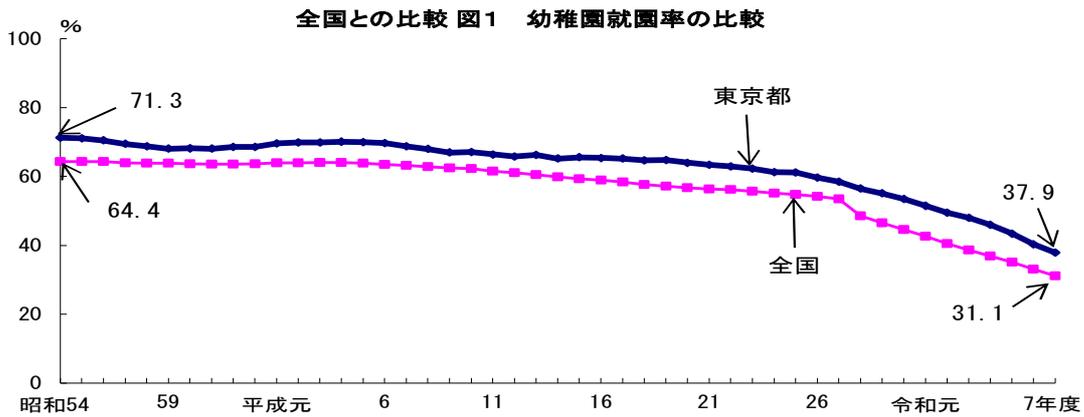
1 幼稚園

- ① 幼稚園就園率（小学校等第1学年児童数（各年5月1日在籍者）に対する幼稚園修了者数（各年3月修了者）の割合）について推移をみると、東京都の割合はすべての年度で全国を上回っている。
- ② 令和7年度の東京都の割合は37.9%で、全国との差は6.8ポイントとなった。

（全国との比較 図1、付表2-3）

注）小学校等第1学年児童数とは下記による。

- ・平成27年度以前は、小学校第1学年児童数のみである。
- ・平成28年度から令和5年度は、小学校及び義務教育学校の第1学年児童数の合計。
- ・令和6年度以降は、小学校、義務教育学校及び特別支援学校（小学部）の第1学年児童数の合計。



注1) 幼稚園修了者数は各年3月修了者、小学校等第1学年児童数は各年5月1日在籍者である。

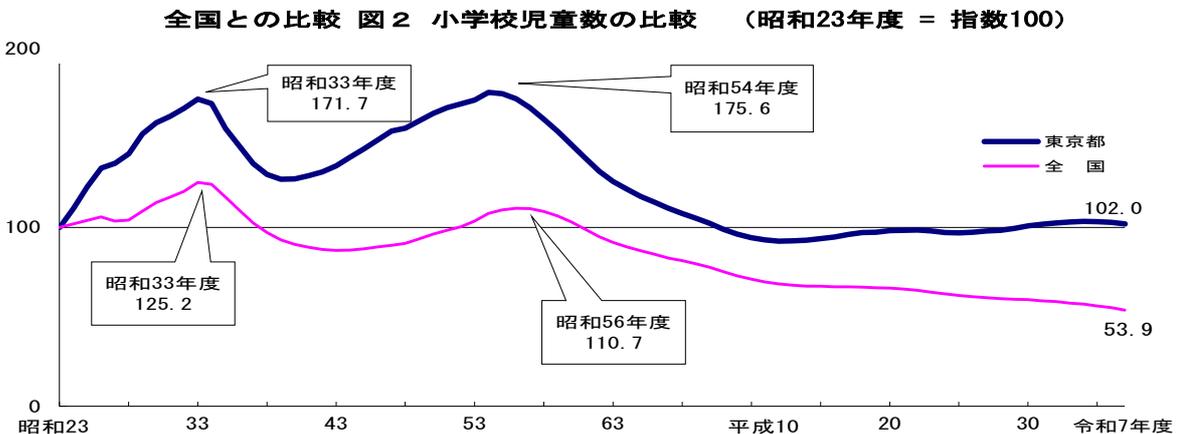
2) 令和5年度までの幼稚園就園率＝幼稚園修了者数／小学校及び義務教育学校の第1学年児童数（義務教育学校は平成28年度から設置）

3) 令和6年度以降の幼稚園就園率＝幼稚園修了者数／小学校、義務教育学校及び特別支援学校（小学部）の第1学年児童数

2 小学校

- ① 小学校児童数について昭和23年度を100とした指数でみると、第1次ベビーブームによる小学校児童数の東京都のピークは、全国と同じ昭和33年度で171.7となっており、全国の125.2を46.5ポイント上回っていた。
- ② 第2次ベビーブームによる小学校児童数のピークをみると、東京都は昭和54年度で175.6となっており、全国より2年早くピークを迎えている。
- ③ 令和7年度の東京都の指数は、102.0で、全国との差は48.1ポイントとなった。

（全国との比較 図2、付表2-4）



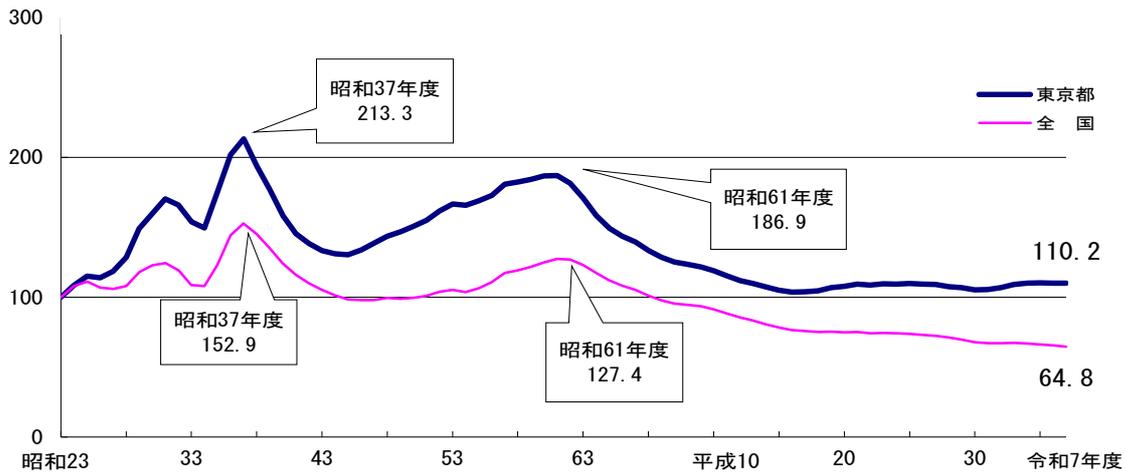
注) 昭和23年度の児童数を100として各年度の児童数を指数化している。

3 中学校

- ① 中学校生徒数について昭和23年度を100とした指数で見ると、第1次ベビーブームによる中学校生徒数の東京都のピークは、全国と同じ昭和37年度で213.3となっており、全国の152.9を60.4ポイント上回っていた。
- ② 第2次ベビーブームによる中学校生徒数のピークをみると、東京都は全国と同じ昭和61年度で186.9となっており、第1次ベビーブームによる中学校生徒数のピークと比べ26.4ポイント下回っていた。
- ③ 令和7年度の東京都の指数は、110.2で、全国との差は45.4ポイントとなった。

(全国との比較 図3、付表2-4)

全国との比較 図3 中学校生徒数の比較 (昭和23年度 = 指数100)



注) 昭和23年度の生徒数を100として各年度の生徒数を指数化している。

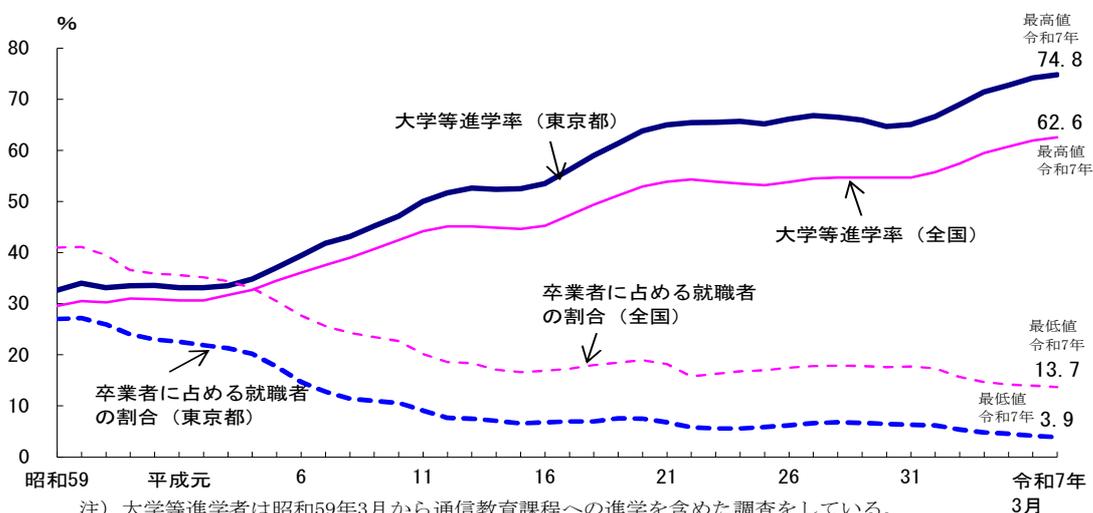
4 高等学校 (全日制・定時制)

(1) 卒業生の大学等進学率・卒業者に占める就職者の割合の推移

- ① 高等学校 (全日制・定時制) 卒業生の大学等進学率をみると、東京都は平成27年3月以降低下していたが、平成31年3月から上昇に転じ、令和7年3月は74.8%で最も高くなった。全国も令和7年3月の62.6%が最も高くなっている。令和7年3月の東京都の大学等進学率は全国を12.2ポイント上回った。
- ② 卒業者に占める就職者の割合をみると、東京都、全国ともに令和7年3月が最も低く、東京都は3.9%、全国は13.7%となった。令和7年3月の東京都の就職者の割合は全国を9.8ポイント下回った。

(全国との比較 図4、付表2-2、2-7)

全国との比較 図4 高等学校卒業生の大学等進学率及び卒業者に占める就職者の割合の比較



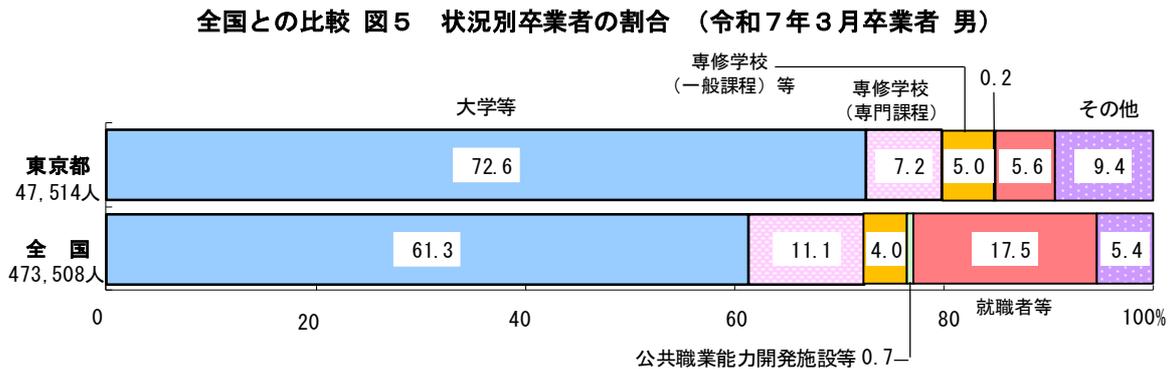
注) 大学等進学者は昭和59年3月から通信教育課程への進学を含めた調査をしている。

(2) 男女別にみた状況別卒業者の割合

① 高等学校（全日制・定時制）卒業者について、男子の状況別卒業者の割合をみると、東京都では、大学等進学者が72.6%で最も多く、全国を11.3ポイント上回っている。次いで、その他9.4%、専修学校（専門課程）進学者7.2%、就職者等5.6%、専修学校（一般課程）等入学者5.0%となっている。

一方全国は、大学等進学者61.3%に次いで就職者等が17.5%で多く、東京都を11.9ポイント上回っている。次いで専修学校（専門課程）進学者11.1%、その他5.4%、専修学校（一般課程）等入学者4.0%となっている。

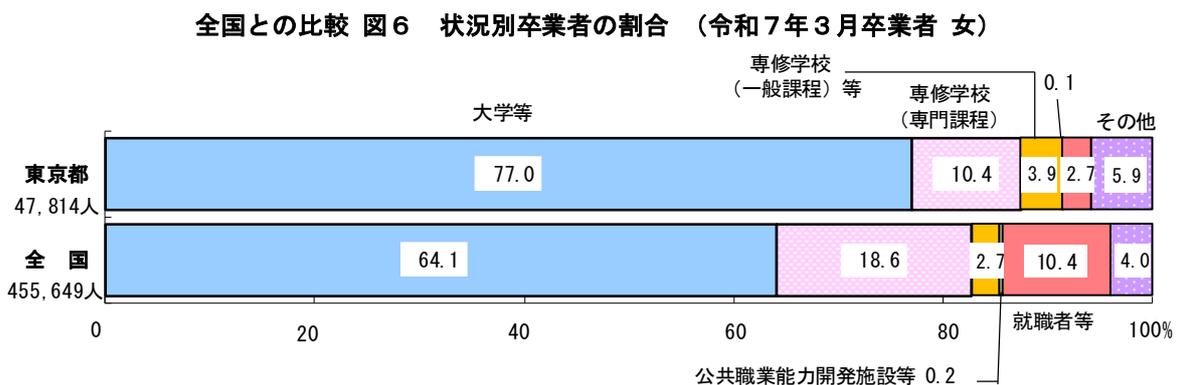
（全国との比較 図5）



② 高等学校（全日制・定時制）卒業者について、女子の状況別卒業者の割合をみると、東京都では、大学等進学者が77.0%で最も多く、全国を12.9ポイント上回っている。次いで、専修学校（専門課程）進学者10.4%、その他5.9%、専修学校（一般課程）等入学者3.9%、就職者等2.7%となっている。

一方全国は、大学等進学者64.1%に次いで専修学校（専門課程）進学者が18.6%で多く、東京都を8.2ポイント上回っている。次いで就職者等10.4%、その他4.0%、専修学校（一般課程）等入学者2.7%となっている。

（全国との比較 図6）



注1) 「大学等進学者」には大学・短大の別科、高等学校専攻科、特別支援学校高等部専攻科への進学者を含む。

注2) 「専修学校（一般課程）等入学者」とは、専修学校（一般課程）及び各種学校へ入学した者である。

注3) 「就職者等」には、常用労働者のうち有期雇用労働者及び臨時労働者を含み、進学しながら就職している者を含まない。

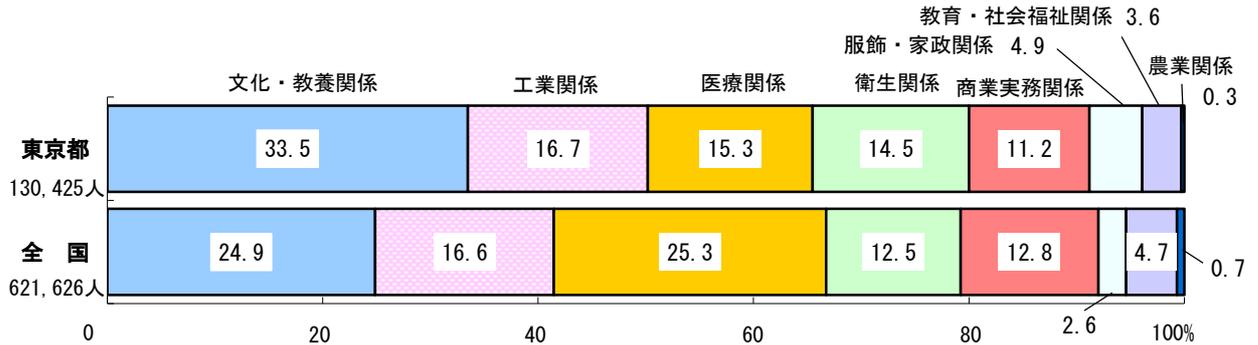
注4) 「その他」とは、家事手伝い、外国の大学等に入学した者、各項目に該当せず進路が未定の者と不詳・死亡の合計である。

5 専修学校

- 令和7年度の東京都の専修学校生徒数は130,425人で、全国の生徒数621,626人の21.0%を占めている。
- 専修学校生徒数を分野別の構成比で見ると、東京都は「文化・教養関係」が33.5%で最も多く、全国の24.9%を8.6ポイント上回った。一方、「医療関係」は15.3%で、全国の25.3%を10.0ポイント下回っている。

(全国との比較 図7、付表2-6)

全国との比較 図7 専修学校生徒数の分野別構成比の比較 (令和7年度)



6 各種学校

- 令和7年度の東京都の各種学校生徒数は26,876人で、全国の生徒数112,109人の24.0%を占めている。
- 各種学校生徒数を分野別の構成比で見ると、東京都は「その他(外国人学校)」が58.9%、「文化・教養関係」が36.7%となっており、この2つの分野で全体の9割を超えている。全国は「その他(外国人学校)」が30.3%で最も多く、「その他(自動車操縦)」が28.8%、「文化・教養関係」が21.5%、「その他(予備校)」が11.0%の順となっている。

(全国との比較 図8、付表2-6)

全国との比較 図8 各種学校生徒数の分野別構成比の比較 (令和7年度)

